

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成30年度第4回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成31年2月28日(木) 午後2時～午後4時
開 催 場 所	市役所4階 403集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員7名 欠席者：なし
議 題 等	1 次期まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民等意識調査結果及び人口ビジョンについて 2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 下記審議経過のとおり、委員から意見をいただいた。 2 平成31年度は、7月頃に現総合戦略に関すること、8月から10月あたりで、次期総合戦略の策定に係る調査検討のために本推進委員会を開催する予定である。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 次期まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民等意識調査結果及び人口ビジョンについて (事務局) 人口ビジョン基礎調査報告書(案)及び各種市民等意識調査結果について説明 —質疑・意見等— (委 員) 転出する理由について、通学・通勤が多いが、一方で、転出しないためには職場が市内にあればよいと考える。武蔵村山市にどのような産業ができれば転出者が減るのかという分析はされているか。 (事務局) 本アンケートでは実施していない。産業振興課では、産業ビジョンを策定したいと考えており、商工業者を中心に聞き取りをしようと思われている。 (委 員) 武蔵村山市と他の地域でどのような産業の違いがあるか整理するとよい。武蔵村山市内で働きたい仕事がないため転出するのであれば、企業を誘致する施策を長期的には考えてはどうか。 (事務局) 産業振興課で企業誘致に関する条例は作っている。しかし、工業地域には空いている土地がない状況である。 (委 員) 転出者について、若い世代の転出が多い傾向にある。 (事務局) 大学生や勤め始めの年代の転出が多い傾向にある。戸建て住宅を購入すると思われる30歳代が転入するイメージがある。 (委 員) また、転出する理由には、仕方なく転出するという消極的なイメージがある。積極的に武蔵村山市に住み続けたいというまちなしにしていけるとよい。 (事務局) 武蔵村山市に人を呼ぶために名物となるようなものが必要であると考え。ワークショップでもそのような意見があった。 (委 員) 市民が誇りに思うようなシビックプライドを醸成することが必要である。積極的に武蔵村山市に住み続けたいという流れにしていきたい。そのような内容が、アンケート調査の自由記入に出ていないか。 (事務局) アンケート調査結果からそのような内容は出ていない印象がある。 (委 員) 子育て世代など、若い方が地域を盛り上げられるまちなしになると

	<p>よい。</p> <p>(事務局) 行政だけで取り組むことは難しい。市民が自ら進めていけるとよいと考える。</p> <p>(委員) モノレールの延伸予定の場所に高級住宅街を開発すると、人口が増え、また、土地の価格も上がると思う。現在、計画なしに戸建住宅が沢山できることが問題になっていると考える。</p> <p>(事務局) 大南では、公主導の計画のもとで住宅街の形成が進んでいる地区がある。</p> <p>(委員) アンケート調査結果から、教育環境の満足度が低いことについて課題があると感じた。子ども達のために教育環境に力を入れると、シビックプライドが醸成し、「この地が好きだからこの地に住もう」という気持ちになると思う。学校の仕組みや教育環境について、市独自の施策があるとよい。</p> <p>(事務局) 以前、特進講座という成績の良い児童を更に伸ばすための取組を行ったが、成績の良い児童は自分でできる、あるいは、塾に通う子が多いという状況であったと聞いている。また、今年度から地域未来塾を始め、地域の人達に学校に来てもらって勉強をみてもらう取組を進めている。</p> <p>(委員) 武蔵村山市立大学をつくってみてはどうか。余っている農地を計画的に買い上げて大学を建設することで、優秀な人材が転入すると思う。秋田県にも同様の事例がある。</p> <p>(事務局) モノレールの沿線まちづくり構想の中には、大学の誘致についても記載がある。</p> <p>(委員) かつて、土地が安い地方に大学のキャンパスを誘致する傾向がみられたが、学生が減少しているため、現在では大学を都心に誘致する傾向がある。</p> <p>(委員) 教育とは勉強だけではない。例えば、武蔵村山市には工場が多い。勉強だけでなく、様々な分野で活躍できるようにすると良い。フィールドワーク型の授業があると良い。</p> <p>(委員) 武蔵村山風キャリア教育ができると良い。</p> <p>(委員) 工業については、東京都の最低賃金により、都内で働く人と武蔵村山市の最低賃金は同じであることから、人件費がかさむことで赤字となりながらも雇用を続ける会社もあるため、賃金面で格差があると感じる。都内と武蔵村山市の最低賃金は違ってよいのではないか、と思う。</p> <p>(委員) 結婚した後に武蔵村山市に住み続けたいかどうか、が分からないか。結婚しても市外に出てしまうと良くない。</p> <p>(事務局) 結婚したいという設問と住み続けたいという設問をクロスすれば分析はできると思う。</p> <p>(委員) 人口の将来展望について、転入促進の場合や転出抑制の場合等で推計をしているが、一般的な推計をしている印象である。今後、武蔵村山市をどのような都市にするか、目標を掲げた積極的な提案が描かれていない。例えば、転入促進の施策を掲げ、その施策に関連した推計が出せると良い。</p> <p>(事務局) 現在は調査段階のものであり、今後、施策を検討しながら展望値を整理していきたい。</p> <p>(委員) アンケート調査では、図書館等の公共施設に対する満足度が低いことが分かる。</p> <p>(事務局) 公共施設関係については、新庁舎の建設候補地の検討をしている。現在、市内に施設が点在しているが、今後、例えば施設を1箇所に統合する場合、空いた場所に図書館の機能を入れるとか、また、他の図書館をどうしていくか等の議論はできる。また、図書館については、電子媒体の活用により、今後そのもの</p>
--	---

が必要なのかという意見も出ている。

(委員) 電子図書館などはどうか。

(事務局) 立川市では電子書籍の対応を始めている。

(委員) 子ども向けの図書館だけでなく、大人のための図書館も必要であると考え。文化の発信地となる機能があると良いが、武蔵村山市には中央図書館がない。そのような中枢機能が必要であると思う。

(委員) 国分寺市に都立図書館ができたが、そのような図書館が誘致できると良い。

(事務局) 東大和市は市役所に中央図書館があり、桜が丘と清水にもあるが、武蔵村山市では防衛省の補助金を活用し、学習等供用利用施設として1階に児童館、2階に図書館、3階に地区会館の建物を市内に5館設置し、総数では6館ある。

(委員) アンケート調査結果の自由記述では、教育環境や公共施設に対する不満はあるが具体的に何が必要か記載されてないため、対応策がみえてこない。

(事務局) 本アンケート調査では、対象者を結婚子育て世代及び転入者・転出者としているため、自由記入には若干の偏りがあると思う。

(委員) 子どもを立川市の塾に通わせているが、バス代の交通費も含めて、教育費の負担が大きいと思う。また、武蔵村山市は小学生から医療費がかかる。例えば、医療費が高校生まで無料になれば、武蔵村山市の子育て環境をPRする1つになると思う。現状では、武蔵村山市の子育て・教育環境については良い環境とは言えないと考える。

また、子どもができない家庭は、不妊治療で費用がかかる。収入の少ない家庭は子どもを諦めざるを得ない状況になり、また人口も増加しない結果になると思う。

(委員) 土地の価格が上がれば、高収入の世帯が転入し、子どもの学力も上がり、公立学校の水準も上がると考える。様々な波及効果が期待できる。

(委員) 施設について、今後、公民連携は必須になると思う。公共施設の維持管理について、28億円のランニングコストに対し、PPP・PFI等で企業が活動できるフィールドを提供することが地域の課題解決に繋がると思うため、計画に含めていただけるとよい。企業側も市と協働で取り組むモチベーションにもなる。

(事務局) 新しい施設を建設する時は、公民連携の手法や他の補助金を活用する方法等を庁内で検討している。

(委員) ふるさと納税は実施しているか。

(事務局) ふるさと納税は実施しているが、市内に名物があまりないことが課題である。村山大島紬についても、返礼品として何度も手に入れるものではないと思う。最近では、市内の家具屋を返礼品として採用している。

(委員) 武蔵村山市の学力を上げるためにふるさと納税を実施するということはどうか。

(事務局) クラウドファンディング的な手法も可能性はあると考える。

(事務局) 本日、委員からの様々な意見をいただいたので、今後検討に活かしていきたい。

2 その他

(事務局) 来年度は、次期総合戦略の策定とともに、今年度実施した地方創生関連交付金活用事業の効果検証及び今年度の総合戦略掲載事業の進捗状況の確認をしていただく。

